

⑤ ヴィクター・スティーヴンソン 著、  
江村裕文 [ほか] 訳

『図説ことばの世界：欧米の言語史』

(青山社)

リーマンショック以来の世界的な金融危機を再び引き起こしかねない、ユーロ圏の信用不安。発端は脱税が当たり前というギリシャの財政赤字です。経済的に他のヨーロッパ諸国の足を引っばっているギリシャですが、言語では大いに貢献しています。科学・学問の分野でいかに多くのギリシャ語が利用されていることでしょうか。「ヘルペス」や「トラウマ」などは日本語の日常会話にも登場するほどです。

本書では、人の歴史を重ね合わせながら言葉のたどった歴史を知ることができます。

802 ||Ste (N.T.)

⑦ ダライ・ラマ14世テンジン・ギャツォ 著  
ソフィア・ストリル＝ルヴェ 編  
ルトランジェ治美 訳

『ダライ・ラマこころの自伝』

(春秋社)

本書は、14代目ダライ・ラマ法王の世界への呼びかけであり、内面的な自伝です。人間、宗教家、政治家として決してぶれることのない不変の信念をもち、チベット問題の平和的解決を願い、自らの困難な人生を語りつつ世界に向けて発した数々のメッセージを紹介しています。思いやりや理性、責任感、寛容、忍耐などといった自分だけでなく皆の幸せのために欠かすことのできない人間的な価値こそが、今という時代の転換期に私たちが意識して培うことにより、知的で倫理的な幸せの鍵であることを思い知らせてくれます。

180.9||Dal (M.T.)



⑥ 村山 斉 著

『宇宙は本当にひとつなのか：  
最新宇宙論入門』

(講談社)

宇宙は太陽系と銀河で構成されていると思われてきましたが、その考え方は一転しました。

2003年に宇宙全体のエネルギーの内訳が明らかになり、星や銀河を形作る元素エネルギーは宇宙全体のわずか5パーセントに満たないということです。残りの95パーセントは目に見えない暗黒物質と暗黒エネルギーで占められ、その実態はまだわかっていません。

現在、宇宙研究の急速な発展により暗黒物質の解明に一步近づいているとのこと。異次元から発せられている可能性があり、SFの世界さながら多次元宇宙が現実かもしれないのです。本書では宇宙創生の謎と「宇宙とは何か」を問い直す最新の宇宙論が語られています。

443.9 ||Mur (Y.S.)

⑧ エリザベス・アボット 著、樋口幸子 訳

『砂糖の歴史』

(河出書房新社)

植民地時代の砂糖産業とそれによって生じた奴隷貿易は大国の経済を支えた一大産業でした。砂糖は莫大な利益と同時に奴隷制をもたらし、非人間的な残虐行為と人種差別が何世紀にも渡り繰り返され、働き手を連れ去られたアフリカは経済的発展を阻まれたのです。

奴隷制崩壊後も年季奉公制と名を変えた新たな奴隷制が形成され、人種差別が今日に至るまで根強く残りました。砂糖の歴史とは、それに惑わされた人間が同胞を抑圧し、抑圧された側が人間性を求め闘い続けてきた歴史でもあるのです。

588.1 ||Abb (A.U.)